

小浜市立中名田小学校 ふるさと中名田のよさをPRしよう

地域の物的資源を活用し、地域で話を聞いたり体験活動をしたりしながら、
地域の良さを発信する縦割りによる取組



①地区特産コシヒカリ「田村米」を使用した米粉クッキーづくり（「米」チーム）



②コミュニティカフェと市役所でクッキー販売、完売（「米」チーム）



③森の遊び場（あたごランド）の改良
・実現可能な遊具づくり（「山」チーム）
・保育園児を招待



「ふるさとの学び特別賞」 推薦書

学校名 小浜市立 中名田小学校	校長名 梶川 和則
-----------------	-----------

1. 推薦理由
本校では、総合的な学習の時間において、「ふるさと中名田のよさをPRしよう」というテーマのもと、3年生から6年生の児童（計14名）が縦割りでチームを組み、地域の物的資源を活用した探究活動に取り組んできた。児童が考えた活動チームは、「山」・「川」・「祭」の3チームである。それぞれ活動計画の下、実際に現場に足を運び、地域の方や専門家の方から話を聞いたり共に体験活動をしたりしながら、ふるさと中名田（人、自然）のよさを再確認する事ができた。さらに、5、6年生の児童（7名）は観点を絞り、「米」と「山」の2チームに分かれて活動を深め、地域（中名田・小浜）の皆さんに中名田の良さをPRするとともに良さを共有していく活動へと進めていくことができた。一連の活動を通して、今まで以上にふるさと中名田を大切に思う気持ちが高まるとともに、子どもたち自身が地域の一員であるという自覚を持つなど成長を実感できる活動となった。以上のことから、本賞に本校の取組を推薦したい。
2. 活動内容 テーマ「ふるさと中名田のよさをPRしよう」（5、6年生の取組から）
①「米」チーム（5年生2名、6年生1名）は、「米粉クッキーで中名田をPRしよう」をテーマに、田村米（中名田地区で収穫できるコシヒカリの呼び名）のおいしさをPRしようと考え、田村米を米粉にし、米粉クッキーを作って販売することを発案し取組を進めた。そこで、子どもたちのアイディアに賛同していただいた地域の方（コミュニティカフェ金四郎のオーナー）の全面協力の下、このプロジェクトを進めることができた。クッキーづくりでは、試行錯誤の末、お客様に提供できるまでの品質に近づけることができ、コミュニティカフェ金四郎と小浜市役所で販売活動を行った。児童自作のチラシを制作し事前に各方面へ配布したこともあり、当日は多数の来客で賑わい、すべて完売することができた。収益金の一部を地域へ寄贈するため、中名田地区ふるさと祭時に寄贈式の時間をいただき、児童から地域代表のコミュニティセンター長へ寄付金として手渡した。残りについては、能登半島地震の義援金として募金を行った。 ②「山」チーム（5年生1名、6年生3名）は、「あたごランドに保育園児を招待しよう」をテーマに、保育園児に森の遊び場を提供したいと考え、2021年から整備を行っている学校の裏山を活用した遊び場「あたごランド」（遊び場の呼び名）の改良を行った。保育園児やその保護者、保育士さんに作って欲しい遊具についてアンケートをとり、自分たちで実現可能な遊具づくりを行った。活動を進めていく中で、地域の方（嶺南森林組合にお勤めの方）に木材の性質やどの場所に遊具を設置したらよいかなど専門的なご指導をいただきながら完成にこぎ着け、2回にわたって保育園児を招待することが出来た。保育園児から高学年までの縦のつながりも深まる活動となり、スタートカリキュラムの視点からも効果的な取組みであったと保育園の職員の方から賞賛していただいた。 ③以上の取組を、1月末開催の「生き生き学習発表会」において、小浜市長を始め地域の皆様や保護者をお招きして発信する予定をしている。
3. 年間活動実績（12月以降の予定を含む）
4月 今年度のふるさと学習の計画とチーム分け 6月 あたごランドに保育園児を招待しよう（第1回） 10月 米粉クッキーで中名田をPRしよう（コミュニティカフェ金四郎、小浜市役所） あたごランドに保育園児を招待しよう（第2回） 1月 生き生き学習発表会（小浜市長、教育長を招いて）